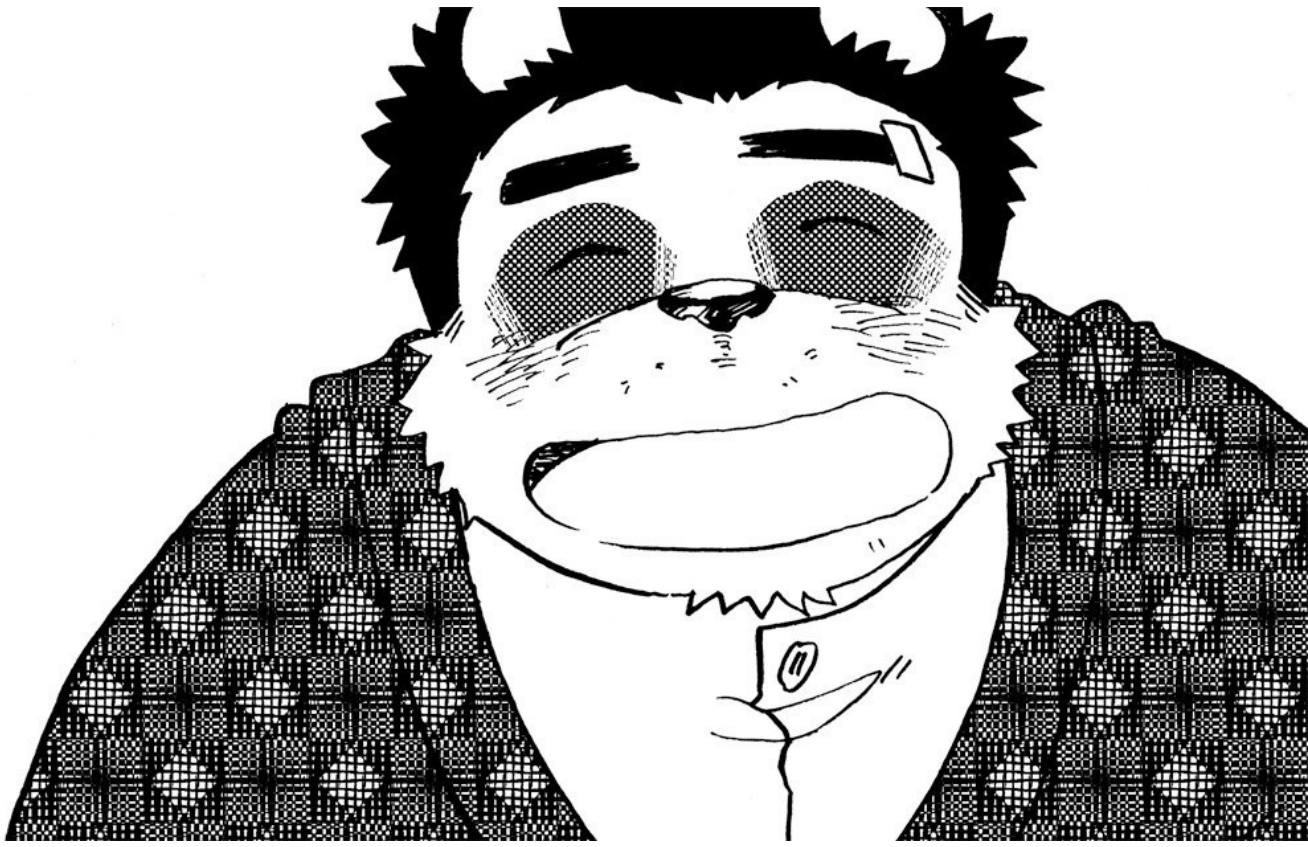
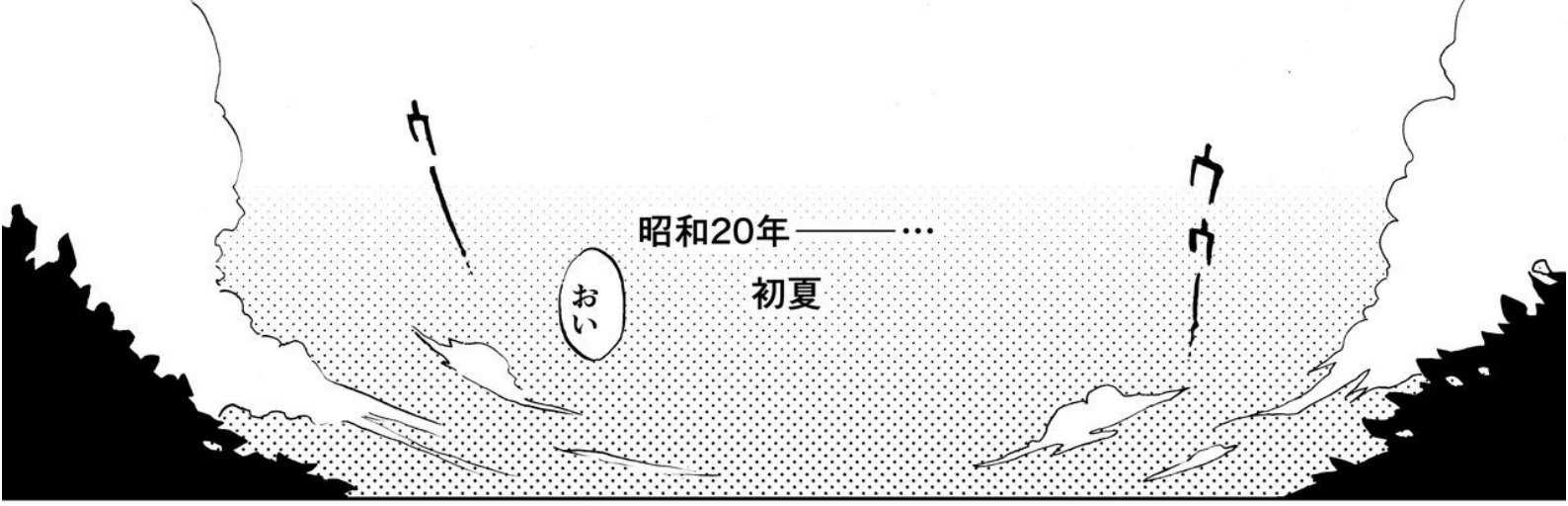
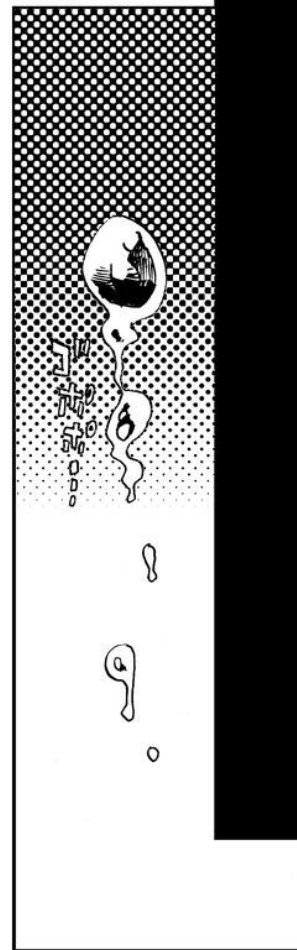
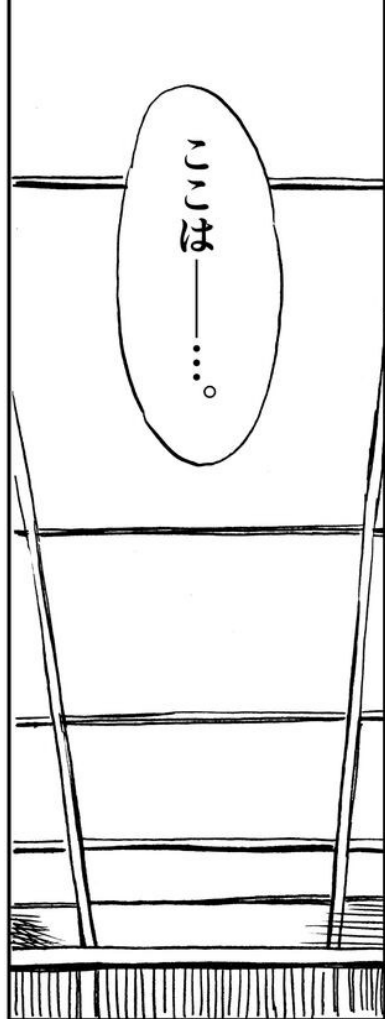


俺は惚れました。

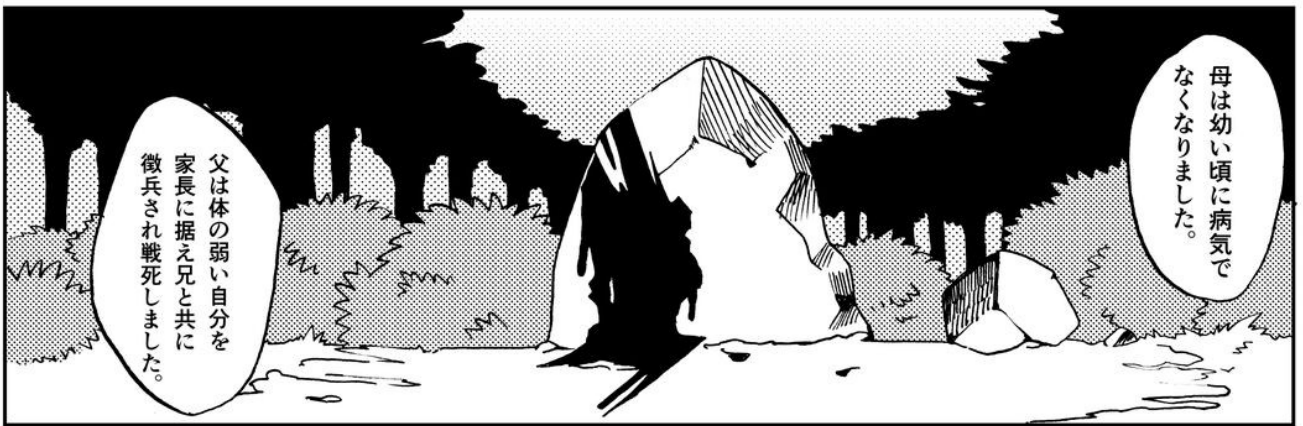


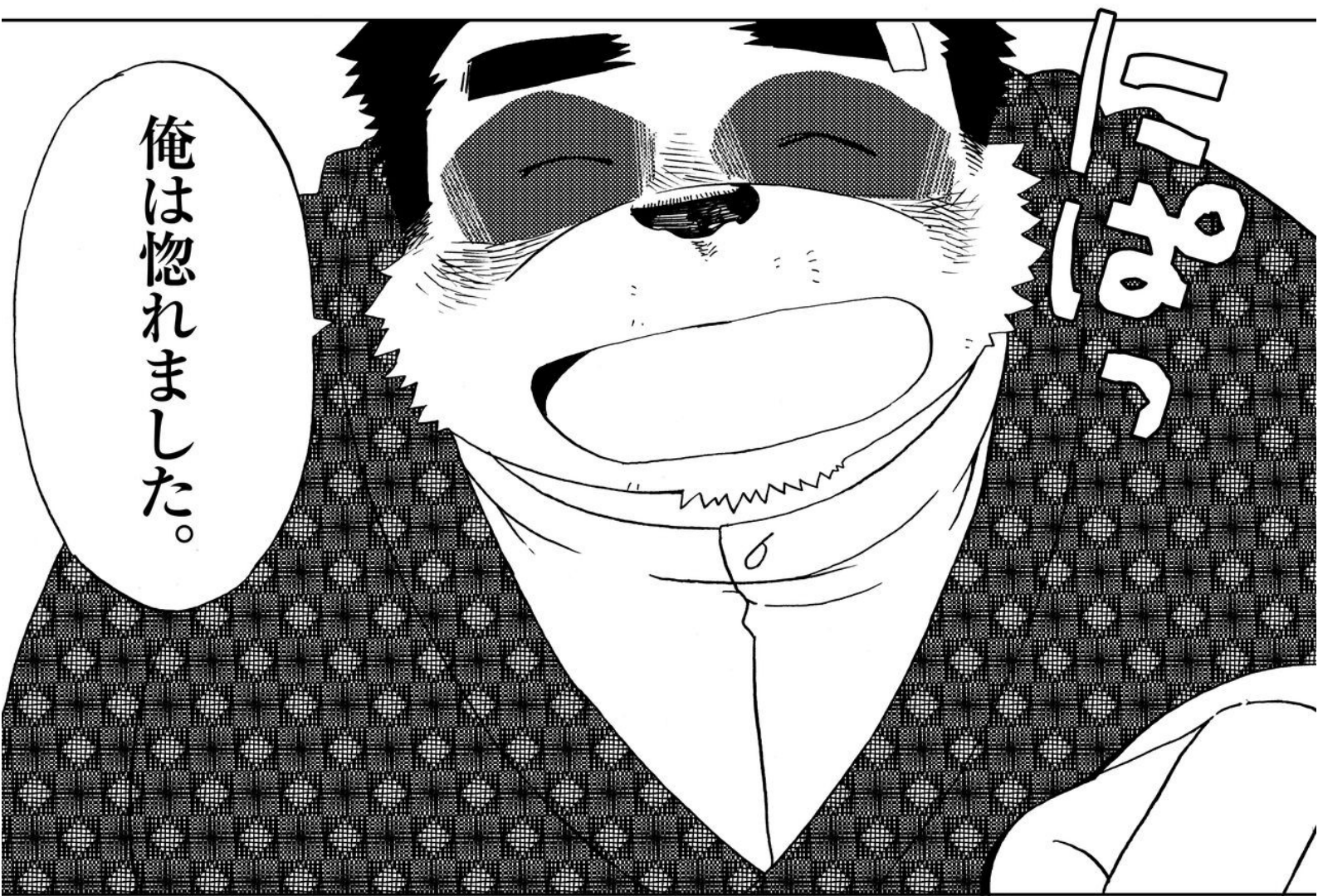


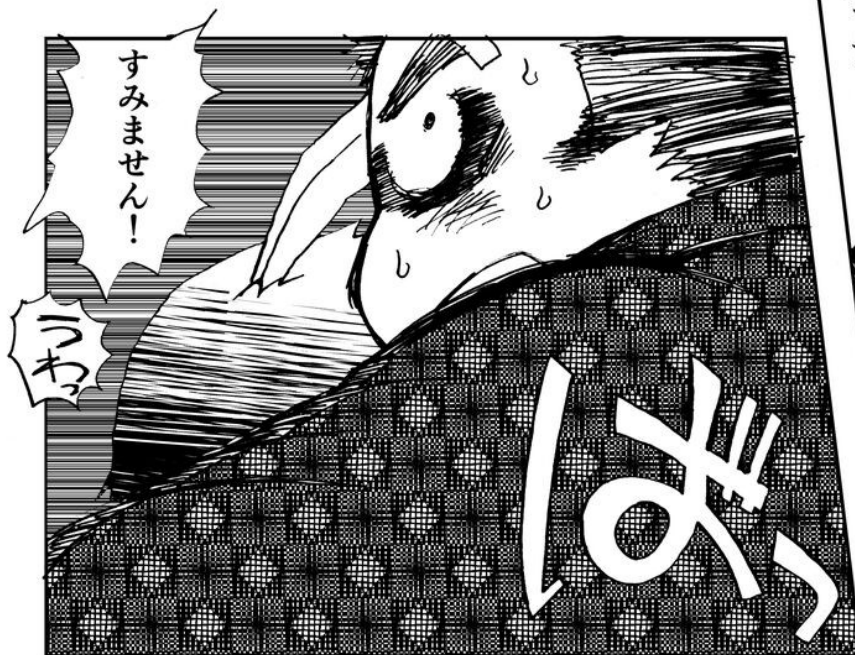
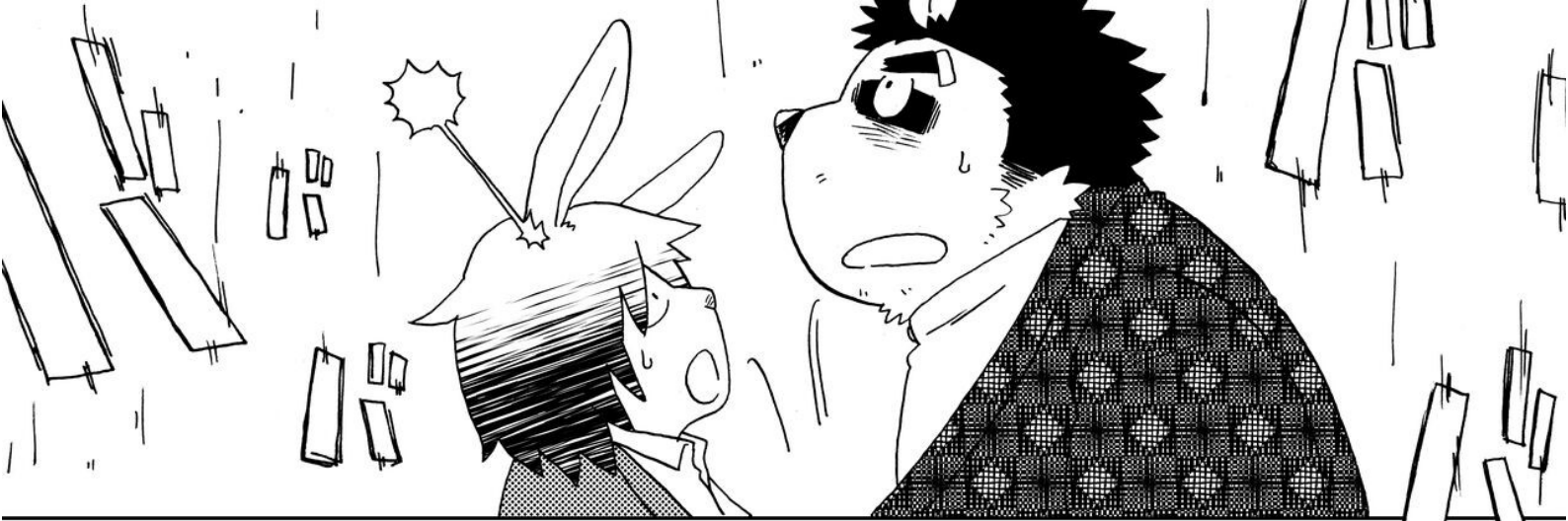


そう











惚れた人も  
守れずに：  
こんな時に  
体を張れずに

いんです



ちよつと...

わん！

ぶぶぶぶ

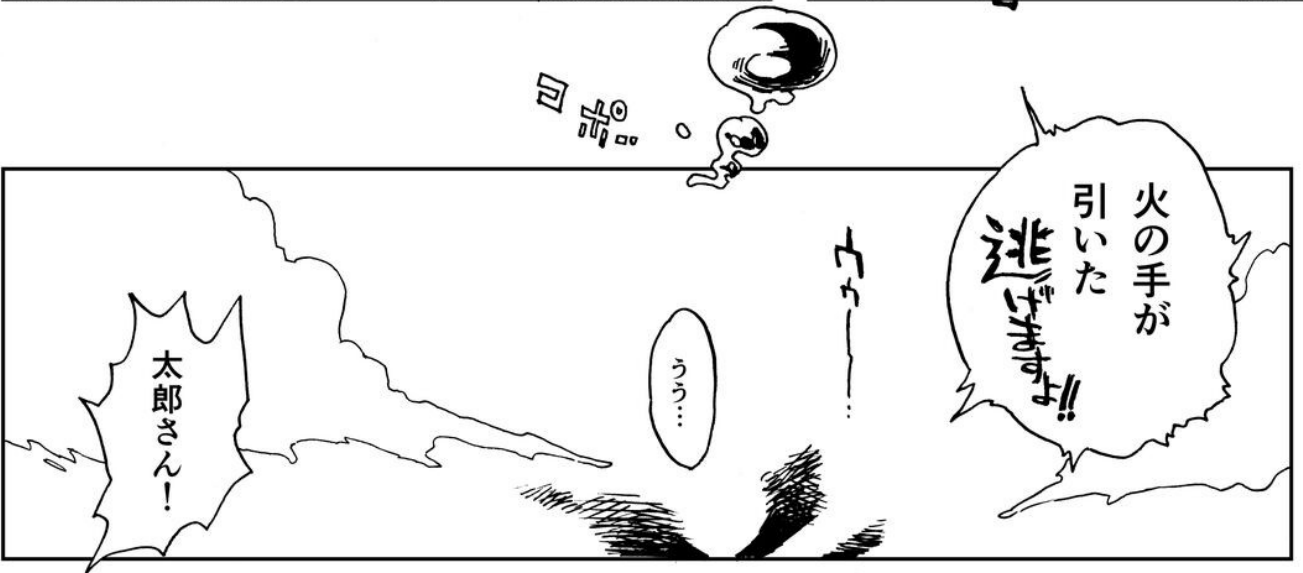
これじゃあ

天海さんが  
危ないじゃないか！

やめてよ  
何してんだよ  
天海さん！！



何が帝国海軍兵長  
を名乗れるか！

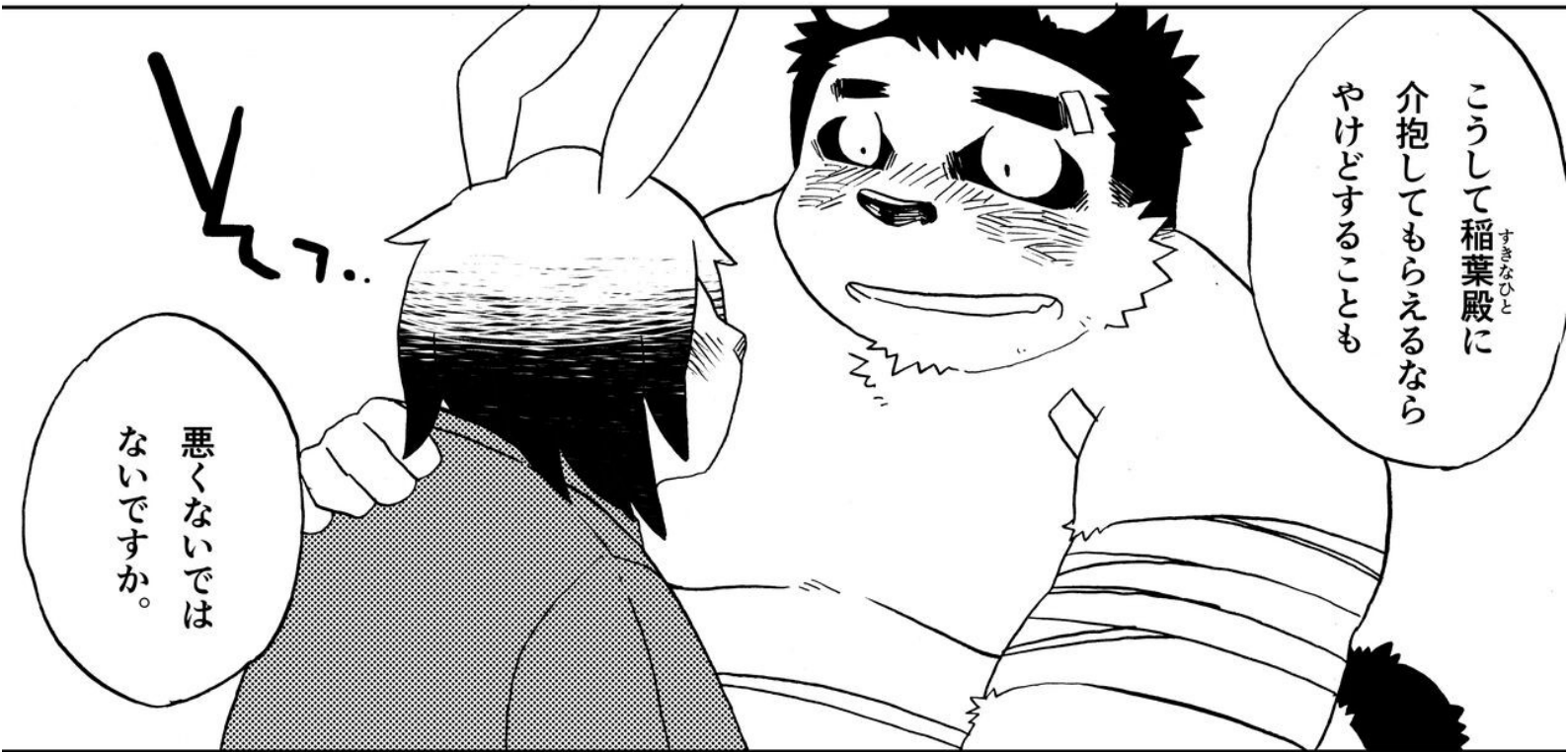


火の手が  
引いた  
逃げますよ！！

うう...

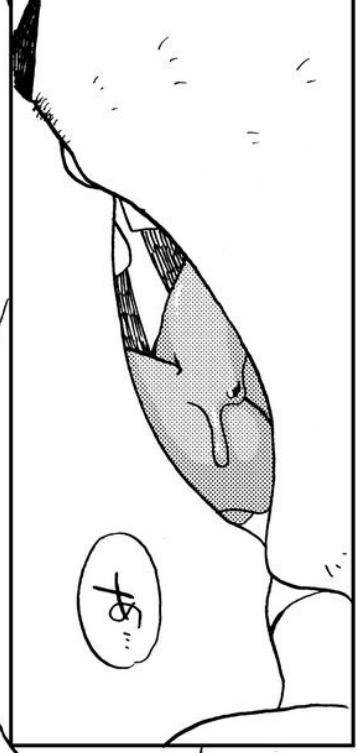
太郎さん！







におい。晴太殿の匂い…



少し煙草の香りがする、唾液の味。

こっこれ以上は  
けが人には  
きついですよ。



先ほど晴太殿が  
言っていたでは  
ないですか

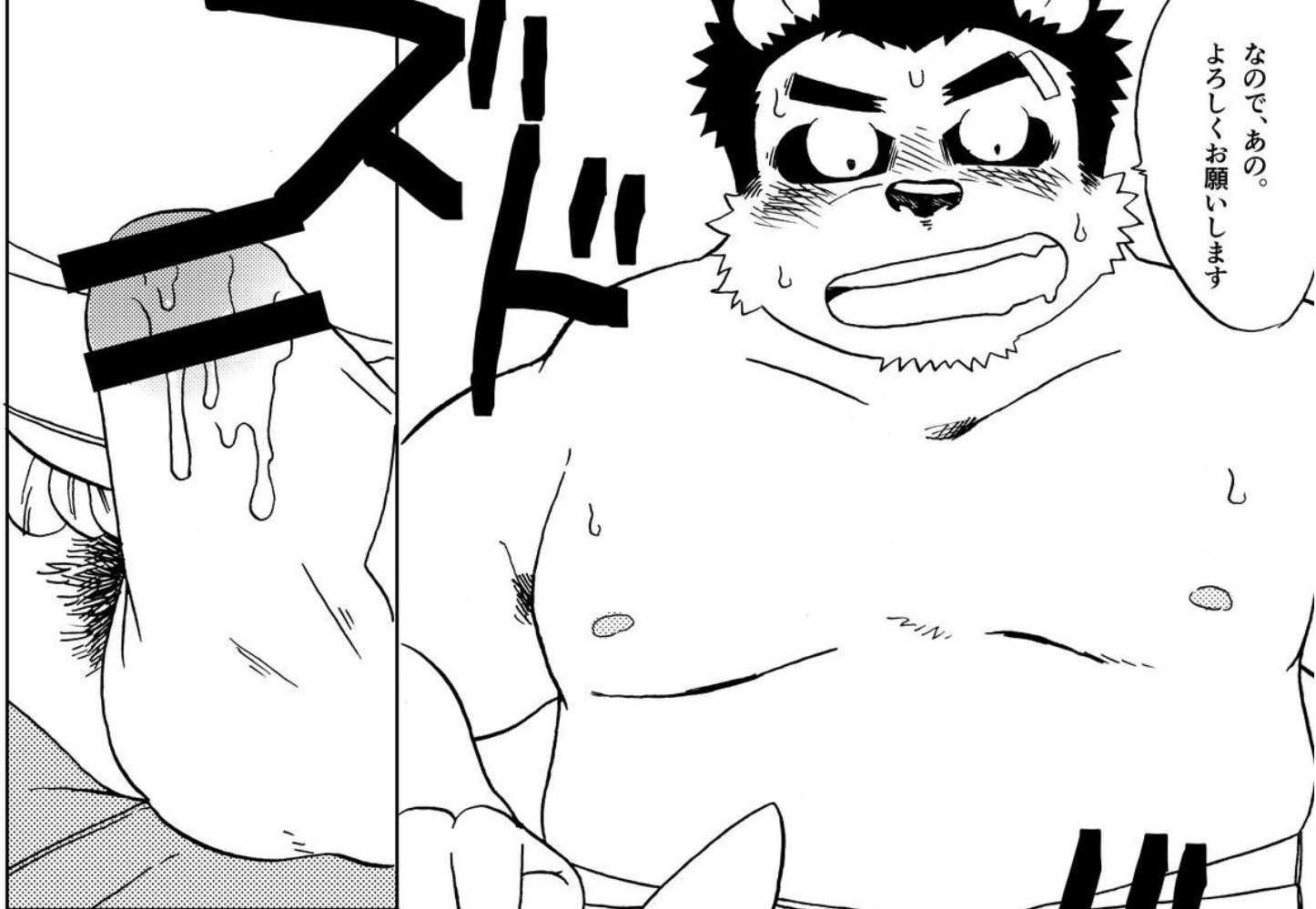


びっくりした

狸は助兵衛ですよ。



なので、あの。  
よろしくお願いします



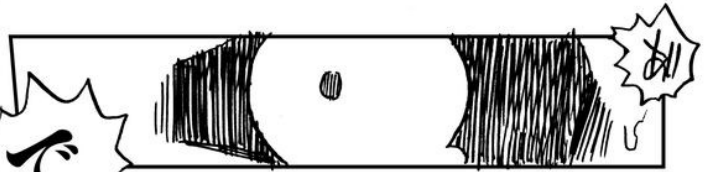
でかい!  
しかもキスしか  
してないのに

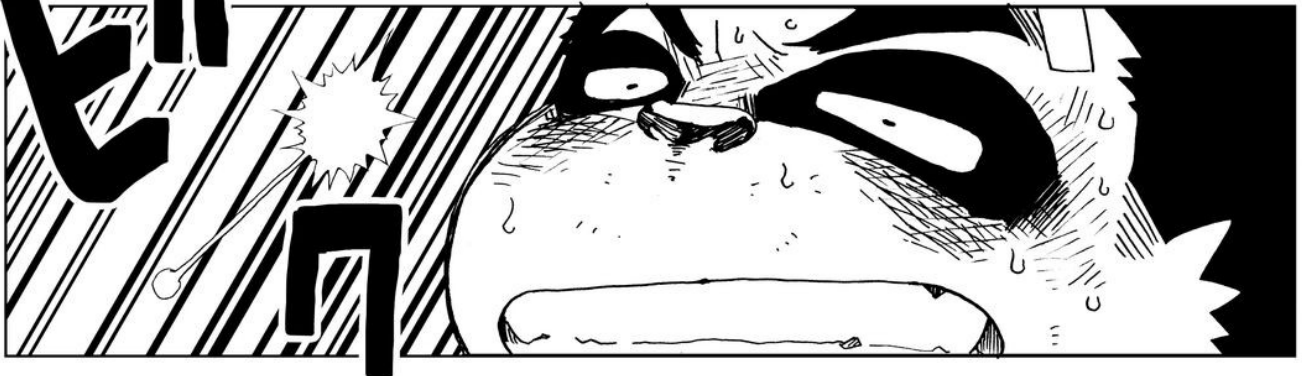
射精<sup>だ</sup>したあと  
みたいに先走ってるし

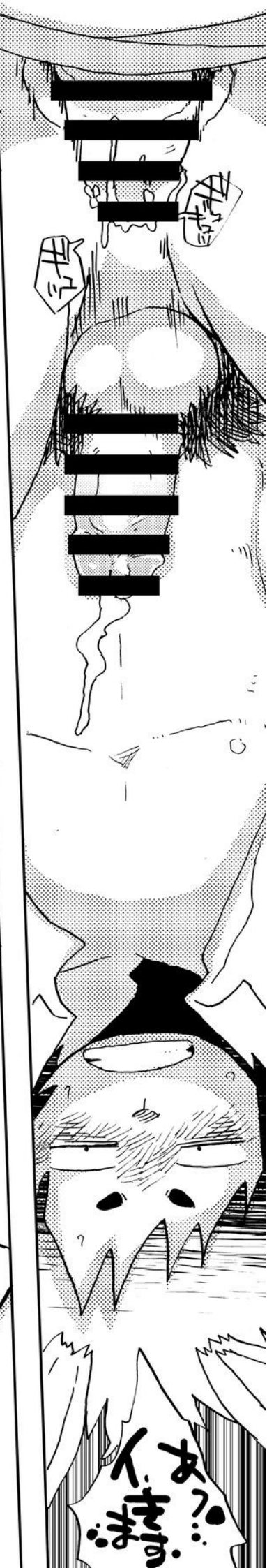


ビュッ

おまんこ







女？！  
キタ

—— 出立前日。

明日、私は  
第五潜水艦隊

回天組特攻隊長  
として戦地へ  
向かいます。

え？

特攻隊長って  
それじゃあ  
あの電話は…

いえいえ  
もともと  
こうなる決まり  
でしたたので

ばか

はは

本当に  
かちかち山の狸の  
ように自分から  
泥舟に乗るつもり？

惚れた人の世界  
を守れずに

何が帝国海軍兵長を  
名乗れますか。



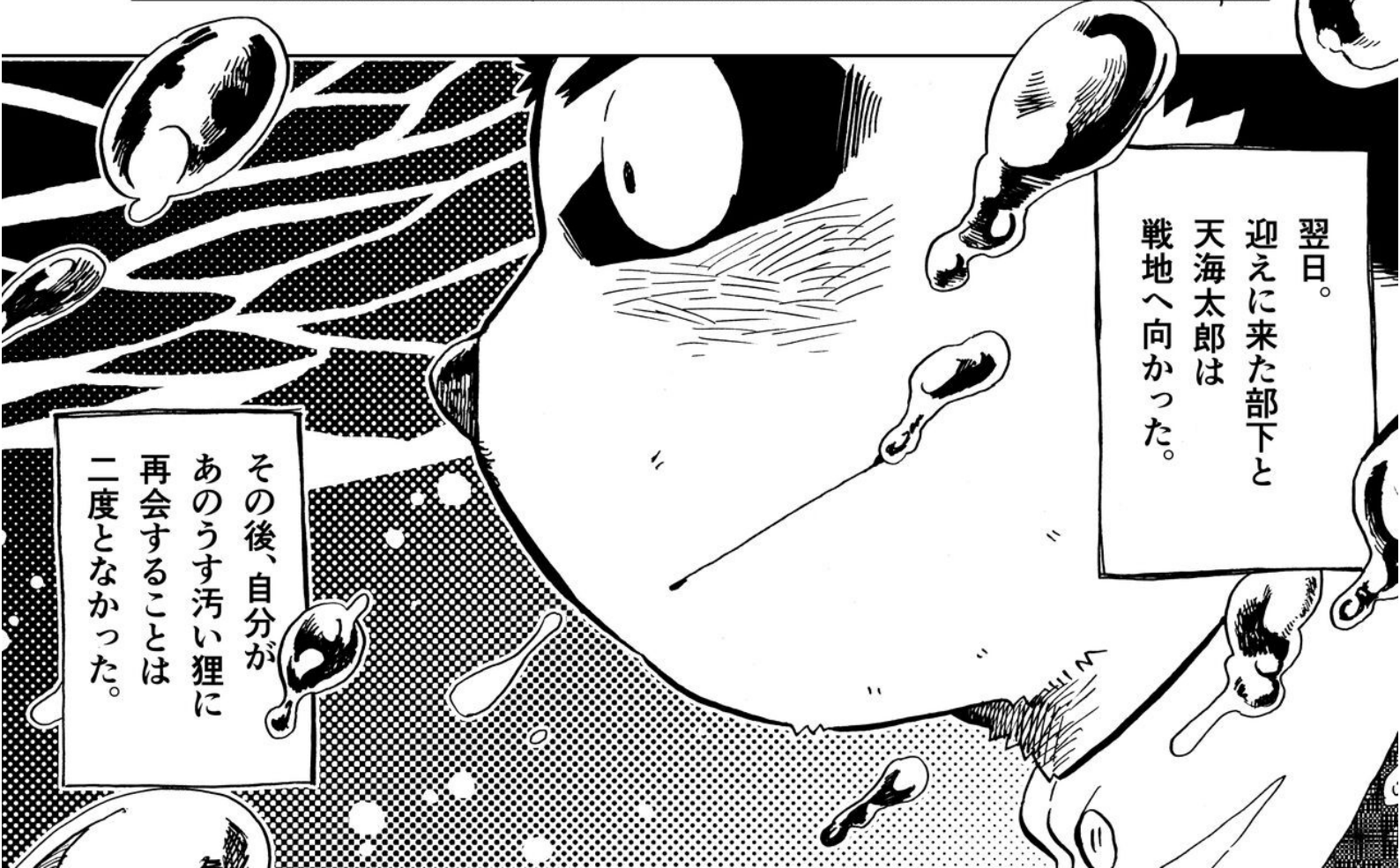
心配も、介抱も  
まるで何も全部  
損じゃないか。  
本当に大損だ！

ふふっ  
あなたは  
心の優しいひと  
ですものね。



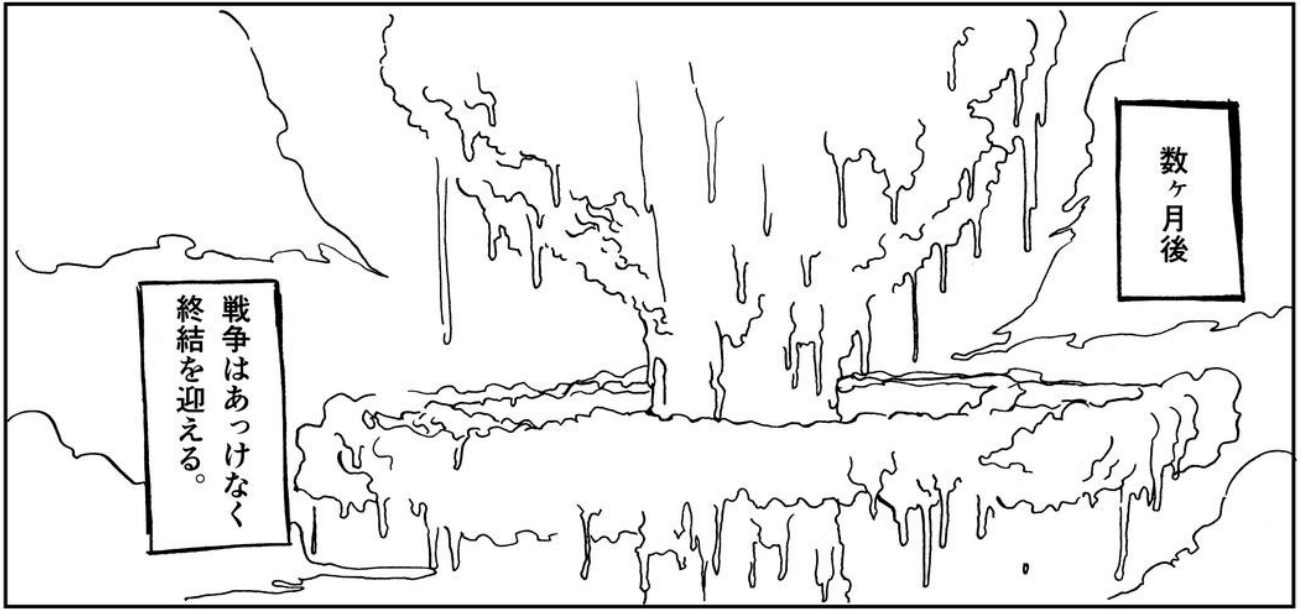
稲葉晴太さん  
俺は本当にあなたが  
好きでしたよ。

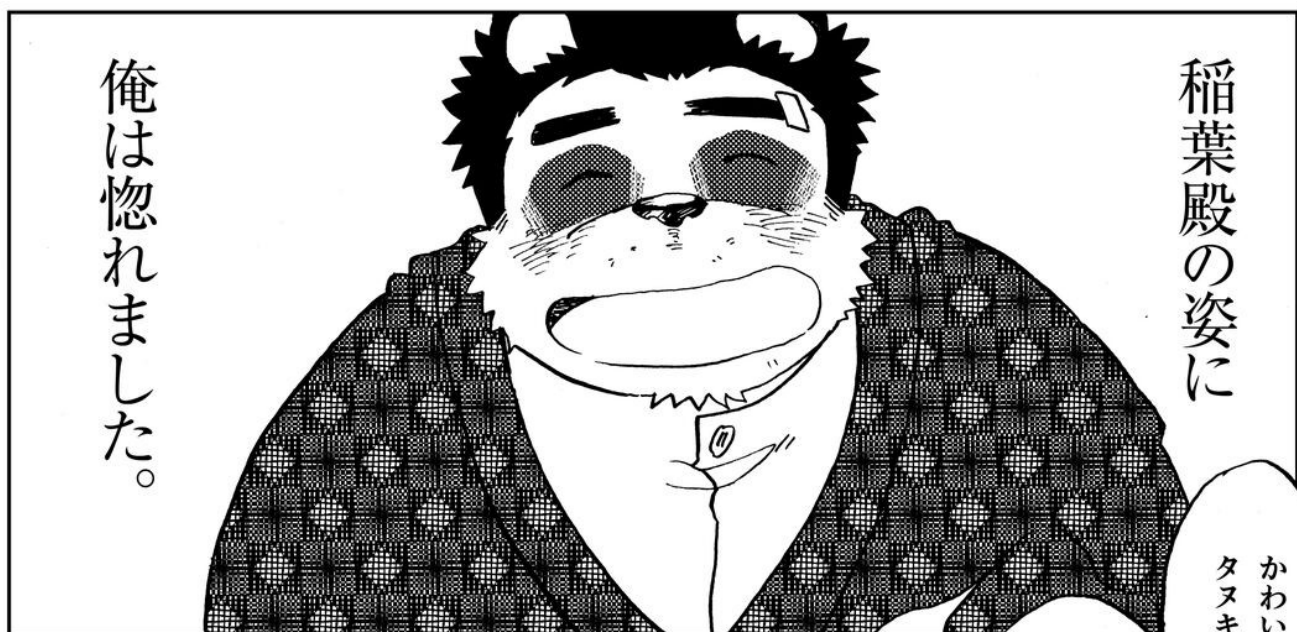
さようなら。



翌日。  
迎えに来た部下と  
天海太郎は  
戦地へ向かった。

その後、自分が  
あのうす汚い狸に  
再会することは  
二度となかった。





かわいそうな  
タヌキさん。

本当はほんの少しだけ  
大好きだったよ。



ざざざ



さようなら。



—異説日本懐古噺 かちかち山—  
完